

1993年暮れに思うこと

森 明子

聖路加看護大学

まだ夏の余韻を味わっていたいような思いを残したまま、今年の秋はひと息に訪れた。経済不況は改善の兆しもなく、企業の中にはいわゆる「リストラ」をはかろうとしているところもある。多くの被雇用者とその家族にとって、秋の風は一層冷たく寂しく感じられたことだろう。

私の身内に一般大学の教員をしている者がいて、先ごろ、卒業を真近に控えた学生の就職難の厳しい現実を憂えていた。私は看護系大学の教員であるが、幸い学生の就職状況は良好である。看護学生と一般学生の就職事情の違いを改めて認識した。これから社会人として出発する学生にとっては、不条理なことに思われるであろうが、たくましく乗り越えていって欲しいと思った。また、この不況下に、心やからだを病む人が増えることのないようお願いしたい。

さて、前回登場された多賀佳子さんは私の母校である聖路加看護大学の後輩にあたるが、この世に生を受けてから今までの人生経験の長さ、厚みにおいては先輩である。そして同僚として共に支え合った時期があり、現在も同業者同士の交流を保っている。だからまったく対等な関係だと思っている。

そういうわけで、身に余る紹介をしてもらって佳子さんの秀抜な文章の後を引き継いでものを書くことは、光栄だけれど気重でもあった。何を書くかと迷ったが、現在の仕事に対する所感を述べたいと思う。

教師の仕事を選んで

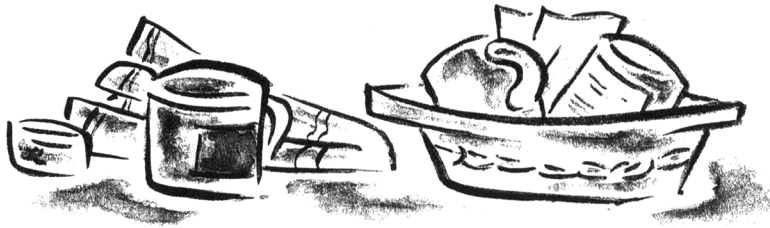
私は看護婦になりたくて、そのための学校を選んだ。初めから助産婦や教師になろうと志していたわけではなく、その後に受けた教育の過程の中で選択してきたのである。しかし、今振り返ってみても、若く、未熟で、なんとも危なっかしい道程だったなあと思う。まるで手本にはならない。けれども私自身は「選んできた」という自覚があることで、今は自分のたどってきた経緯に十分満足している。どのような道程であれ、私なりに自分の専門性を追及してきた過程にほかならないからである。

私の青年期以降の人生と仕事とは切っても切り離すことはできないのである。こうして私が教師の仕事を選んで7年目になった。

教師であるために

今までに出会った教師から私が受けたものは何であろうか。非常に抽象的な問いであるが、教師である自分に向き合うとき、まず問いかけずにはいられない。

看護学生だった時、助産婦学生だった時、大学院生だった時、節目節目において教師との関わりがあった。具体的なことがらも漠然としたことがらもひっくるめて、1つの答えを取り出そうと試



みれば、教師がくれたもの、それは「継続する力」(「生きる力」と言い換えてもよいようなもの)ではなかったかと思う。もちろん、その力は個人の資質や周囲の人々の支援があいまっての成果だとは思いますが、教師が引き出してくれたからこそ力となるのである。

私は学生に何をさし出すことができるであろうか。何をしなければならないのだろうか。これは、教師になってから今まで、そしてこれから先もずっと、両手の中で暖めたり、時には厳しく自分に突きつけなければならないような、私にとっては究極の問いである。

教師の仕事は毎日が闘いである。今日、明日にもしなければならない仕事の連続である。けれども、いつもこの問いだけは大切にしたいと思っている。学生を前に何かを提示できるとしたら、何はさて置きそう問い続ける自分以外にありえないだろう。

自分自身が学生に何ができるか、教師として必要なことは何であるのかを問い続けること、それが答えである。この問いかけをなくしてしまったら、教師であり続けることはできないと思う。今、そういう思いを強くしている。

今後のこと

今年の4月に母校に就職して、仕事の大変さ以上にうれしいことがたくさんあった。

まず、古くから私を知る同級生や、仕事の上で最近顔見知りになりお世話になった方々までもが、皆、就職を喜んでくれたことである。本人の不安や心配をよそに、まるで自分のことのように喜んでいただいた。

また、しっかり者の妹のようなスタッフたちからは、私が弱音を吐くたびに、気遣いや励ましのほか、適確な助言をもらえる。そして、私の指導に対する学生からの手厳しい評価が返ってくるのもうれしいことである(これが実は一番こたえるのだが)。

いずれにしても、何でも言いやすいような、言ってもらえるような、そして、人からの言葉や態度などを受け止め、その意味を吟味できるような人間であり教師でありたいと思っている。

おかしい表現だが、ぴったりののであえて言わせてもらおうと、新しい勤務先での仕事はまだ、口の中に食べ物をたくさん頬張ったまま、満腹に噛めないような状況である。そんな状態なので、指摘されるまでもなく、理想と現実のギャップを痛感しているところだが、少しずつ噛んで飲み込んでいきたいと思っている。食欲(職欲?)旺盛の今日この頃である。

* * *

次回は、弁舌爽やかで、行動力では遠く私の及ばない、東京女子医科大学看護短期大学の李節子先生にバトンタッチしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。